

首都直下地震時等の 災害ボランティア活動 2023 連携ワークショップ 報告書

首都直下地震時等の災害ボランティア活動連携ワークショップは、都内の様々な地域や団体で防災・減災プログラムを実施しながら多様な団体との連携を広げていくきっかけ作りを目的として実施しています。2014 年度から今年度で 8 回目の実施となりました（2019 年度より名称を「連携訓練」から「連携ワークショップ」に変えています）。

今回は、「防災まちあるき」「クロスロード プラスワン」の 2 つをテーマにあげ、取り組みました。新型コロナウイルス感染対策により、ハイブリッドにて実施しました。実会場を設けた実施は実に 3 年ぶりとなりました。

※なお、ワークショップの実施にあたり、コープ災害ボランティアネットワークや品川ボランティアセンターでの取組み（コープ災害ボランティアネットワークは 11 月、品川ボランティアセンターは 12 月に実施した防災まちあるき）にワーキング・グループのメンバーも参加させて頂き、ワークショップの企画にご協力いただきました。ありがとうございました。

日 時 都域プログラム 2023 年 1 月 29 日（日）13:00～17:30
スピノフ・プログラム 2023 年 2 月 7 日（火）18:30～20:30
※感染防止対策のため、リアルとオンラインを併用してのハイブリッド実施となりました。

参加者 合計：65 名

◎都域プログラム 37 人

※生活協同組合、企業、NPO・NGO、社会福祉協議会、市民活動センター、居場所団体、子ども支援団体、人権団体、自主防災会・地域防災協議会、まちづくり協議会、多文化共生団体、防災士関係団体、高校、マスコミ、専門家団体、学生、大学 等

◎スピノフ・プログラム 28 人

※参加者所属団体は上記「都域プログラム」と同様

主 催 東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議

企 画 災害ボランティア活動 2023 連携ワークショップ・ワーキンググループ

都域プログラム(1月29日)

開会挨拶 一般社団法人災害協働サポート東京
関口 宏聡さん



司会
連合東京
真島明美

オリエンテーション

●本ワークショップの目的ならびに主催である「東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議」および昨年秋に設立した一般社団法人「災害協働サポート東京」の組織概要について、事務局である東京ボランティア・市民活動センター 加納より説明しました。

プログラム1「防災まちあるき」

防災まちあるきとは、防災の視点で街を歩き、災害のイメージを膨らませたり、様々な防災資源や危険個所などを探す防災・減災プログラムです。地域の様々な人たちとあるき、仲間やつながりを作ったり、いろんな視点に気づくことができるプログラムです。

●防災まちあるき模擬体験

まずは、防災まちあるきのイメージを持ってもらうため、グーグルストリートビューを使って、模擬体験を行いました。



●防災まちあるき 実施方法の説明とファシリミニ体験

参加者が各地域や団体で取り組めるよう、防災まちあるきの目的や準備の方法、当日の実施方法の説明を行いました。また、防災まちあるきのファシリテーターのミニ体験を実施しました。



防災まちあるきの事前準備・当日実施方法の説明の様子



防災まちあるきファシリミニ体験の様子

●防災まちあるき 実施に向けての宣言作成

そのうえで、参加者は、各地域や団体で防災まちあるきの実施に向けて宣言シートを作成しました。

- ①どんな人と防災まちあるきができそう？
- ②どこでできそうか？
- ③何を目的に？

の3つを参加者に投げかけ、グループで意見交換を行いながら宣言シートを作成しました。作成した宣言シートは会場に貼りだすとともに、各地域や団体での取り組みにつなげるため、持って帰って頂きました。



防災まちあるき宣言シートにはたくさんのアイデアが！

プログラム2「クロスロード／プラスワン」

クロスロードは、とあるお題に対して二者択一で回答を選び、その選択理由を話し合うもので、多様な価値観に気づくことのできる防災・減災プログラムになっています。また、プラスワンはその二者択一の状況からもう一つ選択肢を増やすことが出来ないか考える防災・減災プログラムです。

※クロスロードはチームクロスロードの登録商標です。

●府中市市民活動センター プラッツの取組み事例紹介

前回の2022連携ワークショップに、府中市市民活動センター プラッツの職員が参加したことをきっかけに、府中市内の様々な団体や人たちとともに府中版クロスロード作成準備会を立ち上げました。今回は、その取組み事例をお話いただきました。

事例紹介者：府中市市民活動センター プラッツ 田代美香さん

●クロスロード／プラスワン体験

そのうえで、参加者は7つのグループに分かれ、クロスロード／プラスワンの体験をしました。お題は3つあり、それぞれのお題に対して二者択一でA案かB案を選びます。その中でより議論をして深めたいお題を2つ選び意見交換を行い、もう1つの選択肢C案を作りました。そして、C案を実現するために平（常）時の取組みとして出来ること（D案）を考えました。

●各グループでの意見交換内容の共有、感想の共有

- ・クロスロードの全グループの結果（A案・B案それぞれの人数）を共有しました。
- ・また、プラスワン（C案作りやD案作り）で出てきた参加者のアイデアも共有しました。
- ・その後、参加者にクロスロード／プラスワンを実施してみたの感想を頂きました。



グループでのワークショップの様子

クロスロードのお題

- ①被災地域でのサロンの再開のサポート
- ②限られたリソースの中での隣市への子どもたちへの支援
- ③施設（デイサービス）のBCPと職員の帰宅対応

お題1 被災地域でのサロンの再開のサポート	A案/再開		B案
	人数	割合	
グループ1	8	1	できることとできないことから考え始める。人材を集めるための声掛けをする。
グループ2	4	1	
グループ3	4	2	
グループ4	6	2	
グループ5	4	0	
グループ6	1	4	
グループ7	2	2	
集計	25	12	

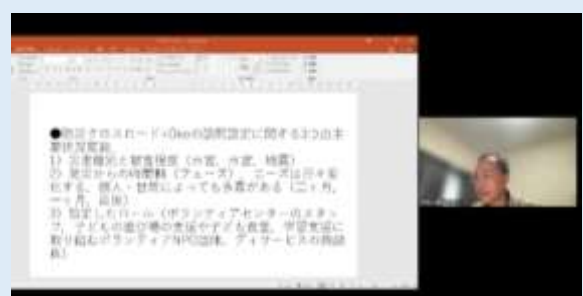
クロスロードの結果を表にして参加者全員に共有しました

グループ番号	お題	D案
1 (被災地域)	被災地での再開のサポート	・被災地へ物資の届きやすさを確認し、サポートの体制を整えている。被災地での再開のサポートをする。被災地での再開のサポートをする。
2 (電力供給)	被災地の電力供給の確保	・被災地の電力供給の確保をする。被災地の電力供給の確保をする。
3 (福祉施設)	被災地の福祉施設の確保	・被災地の福祉施設の確保をする。被災地の福祉施設の確保をする。
4 (災害対策)	被災地の災害対策の確保	・被災地の災害対策の確保をする。被災地の災害対策の確保をする。
5 (避難所運営)	被災地の避難所運営の確保	・被災地の避難所運営の確保をする。被災地の避難所運営の確保をする。
6 (福祉施設)	被災地の福祉施設の確保	・被災地の福祉施設の確保をする。被災地の福祉施設の確保をする。
7 (被災地域)	被災地の再開のサポート	・被災地の再開のサポートをする。被災地の再開のサポートをする。

グループで出したD案の一覧

●クロスロード／プラスワンのポイントの解説

最後に、お題を作成したワーキングメンバーが登壇し、お題を作成した経緯とジレンマとなるポイント、そして、参加者の皆さんにC案やD案で何を議論してほしいのか、お伝えしました。



クロスロード／プラスワンのポイントの解説をする市古先生

振返り・閉会

ワークショップを客観的に見て頂き、次の取組みにつなげるため、コメントをお二人から頂きました。

- ・豊島区南池袋二三四町会防災部長／NPO 支援技術開発機構 北村弥生さん
- ・一般社団法人 減災ラボ 鈴木光さん

<コメンテーター>

北村弥生さん（豊島区南池袋二三四町会防災部長／NPO 支援技術開発機構）

今日はオーガナイズされたワークショップだった。とても良い会に参加することができた。この中に障害のある人に入ってもらいたいと思っている。障害のある人たちが参加するときに配慮することは皆さんにも改めて共有したい。障害のある人たちと一緒に取り組むことで気づくこともいっぱい出てくる。

それから今日はNHKの方が参加されていた。マスコミも平時からの仲間として考えておくともとても良い。マスコミ関係者が参加することで行政や他の参加者の拡大にもつながるので、ぜひ意識してもらえると良いと思う。また、意見交換の中で、ボランティアな活動にもBCPが必要という話があった。新たな気づきを得られてとても参考になった。



鈴木光さん（一般社団法人 減災ラボ）

振り返りの時間も持ちつつ、時間管理もされていて関係者も多く、とても貴重な機会だった。参加する側の目線で参加して気づきも多かった。オンラインでも練られているものは効果が大きいと感じた。防災まちあるきについては、Google ストリートビューを使ってハイブリッドで取り組むこともできそうと感じた。今昔マップや重ねるハザードマップを使うとまた新たな気づきを得られると思う。また、小学校で一斉下校するときに防災まちあるきの視点で、今日の参加者の皆さんと一緒に歩けると良いと思った。

クロスロードは文字量が多くて問題进行处理しきれなかった。設問の中に判断の理由が書いてあるが、もう少し悩ませる要素として書かなくて良いのではないかと思う。クロスロードは作るプロセスが一番面白い。過去に作った時には、既にあるクロスロードのどこを変えるか？という議論をした。アレンジする形はハードルが低いのでそこから始めてみるのが良いと思う。



また、最後に、参加者から感想を頂きました（居場所を運営する方、住民協議会防災部の方）。「プラスワンで様々な可能性に気づけたことが良かった」「居場所に来る防災に関心のない人にどうアプローチしたらよいか考えたい」「防災の専門家だけが防災をやるのではなく、色んな人が関わっていくことが大事と感じた」「今回の内容をメンバーに伝えて、広げていきたい」などの声がありました。

閉会挨拶

災害復興まちづくり支援機構 代表委員 中林一樹さん



スピノフ・プログラム(2月7日)



司会 安村
東京都生活協同組合連合会

1/29 ワークショップの振り返り

- スピノフ・プログラムでは、まず、1月29日の振り返りを行いました。稲城市社会福祉協議会の栗原さん進行により、防災まちあるきとクロスロード／プラスワンを企画した担当者として、プログラムのねらいなどを改めて確認しました。
- 今回は、2月7日に参加した方のほとんどが1月29日のワークショップにも参加していたため、防災まちあるきとクロスロード／プラスワンの実施方法について1月29日には聞けなかった質問や疑問点にこたえる形で進行了ました。



交流会

- 交流会では、1月29日とは別のグループに分かれて自己紹介と意見交換・フリートークを行いました（オンラインはオンラインでグループを作成）。意見交換では、今後、それぞれの地域や団体に防災まちあるきやクロスロード／プラスワンが実施できそうかどうか五段階評価で点数をつけてもらい、その理由を話し合う形式としました。



- 最後にそれぞれのグループで話し合った内容を発表しました。次のような発表がありました。

- ・外国人や子ども、障害のある方など、それぞれの人によって、街の見方はそれぞれだと感じた。
- ・防災まちあるきは「地域とつながっていないのでまずは家族とやりたい」「地域の子どもたちと歩いてみたい」などの意見があった。地域の子どもと歩くと親も一緒に参加してくれそう。
- ・地域に入るためのツールの一つとして、こうしたプログラムを実施するのも良いのではないかと感じた。
- ・勤めている場所の目線で考えてしまうが、住んでいるところで考えると誰に相談したらよいか悩ましいと感じた。住んでいる地域でのつながりを作っておくことの必要性を感じた。
- ・地域や保育園にもつながっていない親がいる。被災した時には避難所にも行けない。その人たちを対象にクロスロードをやってみると良いかもしれないと感じた。
- ・参加を呼び掛けてもなかなか集まらない。既存の団体とコラボしてやっても良いというアイデアが出た。クロスロードは、気づきを得る意味では良いがお題作成が難しい。だが、それを作っていくことで、地域に目を向けるきっかけになったり、地域でのリーダーになっていくのではないかと感じた。

1/29 都域プログラムと 2/7 スピンオフ・プログラムの参加者の声

1/29 都域プログラム

● プレイヤー参加者

- ・ワークショップのテーマやその目的が明確であり、意見交換がしっかり深まり、検証まで行えた。その方法も参考になった。
- ・防災街歩きのポイントやクロスロード+ONE を通じて、いろいろな意見や考え方を拝聴し、多くの団体の連携がいかに重要かを理解できた。
- ・毎年プログラムが充実しており、主催者側の苦勞が感じられるほどでした。数年ぶりに対面開催ができたこともよかったです。
- ・地域災害ボランティア団体では、軽い気持ちでのボランティア気分で参加する高齢者等もおおり、内容が専門的すぎて難しいところもあるかな？と感じました。

スピンオフ・プログラム

- ・前回（1/29）の質問に対してしっかりフィードバックされたのはすごくよくて、参考になりました。時間の都合で、ワークショップがやや短かった。もっとやりたいと思いました。
- ・グループの中で問題点に共感して下さる方が多く、私が着目していることが間違っていないことに気づき、安心し、これからも問題解決の方法をさがしていきたいと思いました。
- ・クロスロード+one についてはお題づくりが非常に難しいと感じた。お題の共有も何とかお願いしたい。

◆ Special Thanks（連携ワークショップ実施にあたり、ご協力いただいた皆さま）

亀川悠太郎さん、櫻井佑樹さん、栗田克紀さん、渡邊珠人さん、小野満与さん、長尾日向子さん、松澤智佳子さん、渡邊春花さん、片根菜緒さん、島雄智也さん、佐藤光さん、坂井博文さん、宮地由紀子さん

◆ 企画・運営 ワーキング・グループメンバー

ピースボート災害支援センター（大塩さやか、遠藤聡）／シャンティ国際ボランティア会（中井康博）／災害協働サポート東京（福田信章）／東京都生活協同組合連合会（安村知宏）／東京都立大学（市古太郎）／真如苑 SeRV（白石幸男）／北区社会福祉協議会（野呂尚暉）／稲城市社会福祉協議会（栗原和恵）／連合東京（真島明美）／災害復興まちづくり支援機構（田村裕美、吉田雅一）／ADRA Japan（小出一博）
＜サポーター＞ダイナックス都市環境研究所（津賀高幸）
＜オブザーブ＞ADRA Japan（三牧晋之介）

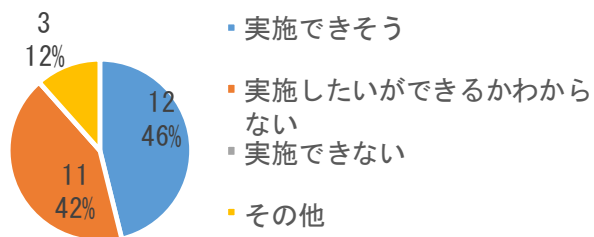
主催：東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議

【問合せ】東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議（事務局：TVAC 加納・岩本・山本・神辺）

電話 03-3235-1171 E-mail saigai@tvac.or.jp

※本プログラムは、東京都共同募金会の助成金により実施しました。また、東京都の補助事業として実施しました。

地域や団体が防災まちあるきが実施できそうか？



地域や団体がクロスロードが実施できそうか？

